

研究紀要の発刊に寄せて

静岡県総合教育センターは、平成7年8月の開所以来、「拓く」「究める」「創る」「支える」の4つの漢字をとった「拓究創支」を基本理念に掲げ、高度な研究を基盤とした質の高い研修等を通して、本県における学習と教育の中核的存在として、常に新しい時代の人づくりを目指してまいりました。

本センターでは、研究を、研修と並ぶ主要事業として位置付けており、教育に関する今日的な諸課題の解決に向けて、学校や教職員の取組を支援する実証的、実践的な研究を、組織的、計画的に行っています。この研究紀要は、その研究成果を本県教職員をはじめ、多くの教育関係者の皆様と共有するものです。

本年度の研究紀要には、研究計画の完了年度に当たる2つの研究、専門支援部教育相談課、総合支援部小中学校支援課による研究の成果を掲載しました。

教育相談課による「子どもたちが援助資源につながる環境づくりー子どもたちのレジリエンスに着目してー」を主題とした研究は、学校不適応を経験した児童生徒が回復に至る要因を分析し、課題を抱える児童生徒が援助要請を出しやすい、学校における教育相談体制づくりを提案するものであり、小中学校、高等学校、特別支援学校、いずれの校種においても、多様な背景を持ち、課題を抱える児童生徒を支援するにあたって、活用いただけるものとなっています。

また、小中学校支援課による「教育の目標の実現に必要な教育内容等を教科等横断的な視点で組み立てるカリキュラム・マネジメントに関する研究」は、教職員が、学校として育成を目指す児童生徒の資質・能力について共通理解を図り、教科横断的に授業改善に取り組むことで、教職員の授業力の向上が見られることを示すものであり、現行の学習指導要領が求める、新しい時代に求められる資質・能力の育成に向けた、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの一層の推進に資するものと考えています。

いずれの研究についても、研究協力校における実践や効果検証、センターでの研修等におけるアンケートや聞き取り調査などを踏まえており、学校の実態に即したものになっています。これらの研究成果が本県教育に関わる多くの皆様に御活用いただけることを願うとともに、本研究を進めるにあたり、御協力いただきました学校並びに関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

静岡県総合教育センター
所長 松下 和弘